



# e-La Voz

「エー・ラ・ボス」と読みます

## HCJB『アンデスの声』 日本語放送 メールマガジン (第41号)

2006年7月3日発行

### 日本語放送再開ドキュメント その時、わたしは・・・2006年6月3日

“待ちに待った日本語放送の再開！どれほど待ちわびていたことか。いつものことながら仕事から帰ってきたのが午前3時半。ひと寝入りと床についても5時半には目がひらき、まるで遠足前の子供状態(笑)ワクワクでした。放送の伝搬状態も極めてよく、元気な皆様の声をお聞きしてとても幸せです。私たち日本のリスナーのために日本語放送を再開していただきお礼申し上げます。30分間はあっという間、もっと長ければ・・・(贅沢ですね)。今日は最高の週末となり早速、書留速達で受信報告書を送ったところです。”

この手紙の主、京都の永野和正さんには日本語放送再開記念特別ペリカードの第一号が発行されました。同じ頃、HCJB太平洋地域責任者のアダムス氏のもとには、大阪の影山惇久さんから英文レポートがとどきました。

“今朝、オーストラリアから飛んできた日本語放送再開の記念番組をキャッチしました。再開おめでとうございます。衷心よりお祝いと感謝を申し上げます。他局との混信もなく、ローカル局と同じように良好な状態で聞こえ、番組を心ゆくまで楽しませていただきました。私のホームページの方にも放送終了直後から次々と書き込みがあり、みんな再び懐かしい声がきかれてとても喜んでいました。”

HCJBオーストラリア局には、仙台の白石晋一さん、鎌倉の大武達伯さん、金沢の茶木直之さん、福岡の小野ともみさん、大阪の脇坂聡さん、横浜の長谷川伸也さんからレポートがとどきました。シカゴには、大阪のキム画伯から民族人形の絵にそえてお祝いの言葉を巻紙でいただき、奈良の佐藤純一さんはメールが不良だったため電話とファックスで連絡のあと、番組の録音テープを郵送してくださいました。このような多くのおみなさんのご協力に深く、深く、感謝しています。



その時、私は・・・。放送開始5分前から愛機トリオR—1000にかじりつき、息をひそめ耳をそばだてていました。ところが時間になっても15525キロヘルツの信号メーターはほとんど振れず、周波数をたしかめて微調整しても聞こえるのはノイズばかり。時間も刻々と過ぎて、やはりシカゴでは無理だとあきらめて庭に出た途端、久子の「きこえるわよ！」という声。急いでラジオの前にひきかえしたところ福沢路得子さんの澄んだ歌声で賛美歌が流れていました。そのあとアナウンスがきこえて放送終了。時計をみるとまだ8時5分前。えっ！時差？送出ミス？番組制作ミス？これは大変と横浜の齊藤淳一さんに国際電話で確かめたところ「全番組は時間どおり放送されましたよ。そちらの時計は？」ときかれて、まさかと見上げた鳥時計がなんと5分遅れ。折しも時報を知らせる鳥の鳴き声が「アホウ、アホウ」・・・。餌箱には新しい電池を入れました。

一方、淀橋教会では放送再開と同時に電話や受信報告書が無い込みはじめ、週明けとともに早速40通の手紙がどさっと配達されて係も大あわて・・・。

“お便りの数に教会事務所では驚いています。短波愛好者の熱に圧倒されました。今朝(6日)もすでに43通届き、嬉しい悲鳴をあげながら、カードと返信をお送りする作業を進めています。峯野先生は北海道に出張中で、まだリスナーからのお便りをご覧になっていませんが、きっと大喜びなさることでしょう。リスナーの方々の手紙を読ませていただいておりますが、短波のすごさに驚くばかりです。”

短波は世界の空を駆けめぐります。アンデスの峰をこえて南米や日本にとどいた電波が、今度は南半球のオーストラリア大陸から赤道をこえて日本へ。「時はめぐり場所は移れども、変わらぬは短波リスナーの情熱」です。それに応えて私も今夏に東京で開催されるハムフェアに出席します。8月19日(土曜日)にJSWCブースでお待ちしています。オーストラリアの記念品やHCJB開局75周年の記念グッズなども用意します。滞日中はインタビュー番組「土曜トーク:ふれあい短波」の取材で9月30日まで全国を駆けめぐりたいと思っていますので何卒よろしくお願いたします。

---

## HCJB日本語放送(オーストラリア送信):

放送日時: 毎週土曜日、日曜日  
日本時間 0730 - 0800 (2230 - 2300UTC)  
送信周波数: 15525kHz (19mb)  
受信報告書の宛先: 〒169-0073  
東京都新宿区百人町1-17-8  
淀橋教会HCJB係  
(※返信用に80円切手を2枚同封して下さい)

---

HCJB日本語放送担当

在 姓 尾崎一夫 久子

---

## 【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ(<http://japanese.hcjb.org/>)には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「フォーラム」(<http://japanese.hcjb.org/forums/>)と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「メールマガジン e-La Voz らいぶらり」(<http://www.hcjb.org/japanese/mmz/>)のページがあります。どうぞご利用ください。

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録も[HCJB日本語放送](#)までメールにてお知らせください。なお、メール・リストは配信先メール・アドレスのみで管理されていますので、配信先変更をご希望の場合には、現在登録されている配信先も併せてお知らせください。



Copyright © 2006 by HCJB. All rights reserved.

日本語ホームページ: <http://japanese.hcjb.org/>

Eメール: [kozaki@hcjb.org](mailto:kozaki@hcjb.org)

郵便の宛先:

Mr. & Mrs. Kazuo Ozaki

1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.

---